

# 古文ドリル：比況「やう・ごとし」識別 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「やう・ごとし」の比況

古文の比況表現：

形	接続	訳
やうなり	体言・連体形+「の」	～のようだ
ごとし	体言・連体形+「の」「が」	～のようだ
やうに	体言・連体形+「の」	～のように
ごとく	体言・連体形+「の」「が」	～のように

## 「やうなり」と「ごとし」の違い

形	活用	例
やうなり	形容動詞型（ナリ活用）	月のやうなり
ごとし	形容詞ク活用型	月のごとし

→ ほぼ同じ意味、活用と接続が違う。「ごとし」は漢文訓読体に多く、「やうなり」は和文に多い。

## やうなりの活用

未然	連用	終止	連体	已然	命令
やうなら	やうなり/やうに	やうなり	やうなる	やうなれ	やうなれ

## ごとのしの活用

未然	連用	終止	連体	已然	命令
ごとく	ごとく	ごとし	ごとき	○	○

## 識別の鉄則

1. 「やうなり」「やうに」「やうの」 → 比況の助動詞「やうなり」
2. 「ごとし」「ごとく」「ごとき」 → 比況の助動詞「ごとし」
3. 直前の活用形で接続を確認
4. 意味用法：
5. 比喩（～のようだ）：「雪のやうに白し」
6. 例示（～などの）：「春・夏のやうなる」
7. 婉曲（～という）：「思ふやうにて」
8. 推定（～らしい）：「降るやうなり」

## 🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「の／が+やう／ごと」を見たら比況確定

比況の助動詞は「～の／～が」のあとに連結することが多い。 - 「雪のやうに」「玉のごとし」「夢のごとく」 → 即「比況」

「～のやうに」「～のごとし」のフレーズを見たら反射で比況と答える。

### コツ② 「やう」が形式名詞のパターンに注意

「やう」は **比況の助動詞「やうなり」の語幹** だけでなく、「様（やう）」という**形式名詞** として「方法・様子」を意味することもある。 - 「思ふやうにて」 → 婉曲（「思うことには」「思うようにして」） - 「言ふやうは」 → 「言うところによれば」（形式名詞）

「思ふやう」「言ふやう」と来たら、**発言や思考の引用** で形式名詞扱い使い方。

### コツ③ 「ごとし」は漢文訓読体に多い

漢文っぽい引き締まった文体（『方丈記』『徒然草』『平家物語』）で出てきたら「ごとし」、和歌や物語（『源氏』『枕草子』）なら「やうなり」が多い。 - 「玉のごとし」「水の流るる**がごとし**」 → 漢文訓読・無常観の文体 - 「雪の**やうなる**」「夢の**やうに**」 → 和文・物語の文体

文体の手触りで区別できる。

## コツ④ 「やうなり」の意味判定は4択暗記

「やうなり」の意味は4種類。文脈ヒントで即答。 - **比喩**：「～のように」（雪のやうに白し） ← 一番多い - **例示**：「～などの」（春・夏のやうなる季節） - **婉曲**：「～という／～のようで」（思ふやうにて） - **推定**：「～らしい」（降るやうなり、雨が降っているらしい）

直前が体言・連体形＋「の」なら比喩/例示。「らしい」と訳して通れば推定。

### 試験本番でのチェック順序

1. 「やう／ごと」の **直前** を見る（の／が／連体形が来ているか）
2. 「の／が」＋やう／ごと → 比況で確定
3. 「ごとし／ごとく／ごとき」のかたち → 比況「ごとし」確定
4. 「思ふやう／言ふやう」と来たら形式名詞の可能性も検討

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

### よくある引っかけ

- ・ 「思ふやうにて」を全部比況と決めつける（実は婉曲・形式名詞の用法あり）
- ・ 「ごとし」の活用形を見誤る（連体「ごとき」、連用「ごとく」が混在しやすい）
- ・ 「降るやうなり」を比喩と訳す（実は推定「降っているらしい」）

## 採点表

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

## 【第1部】基礎編（Q1～Q20）

「やうなり」「ごとし」を比況として識別する基礎。

### Q1. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

雪のやうに白し。

答え：比況「やうなり」連用形「やうに」 解説：体言「雪」＋「の」＋「やうに」。「雪のように白い」。

---

Q2. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

玉のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：体言「玉」＋「の」＋「ごとし」。「玉のようだ」。

---

Q3. 次の傍線部「ごとくに」を識別せよ。

夢のごとくにぞある。

答え：比況「ごとし」連用形「ごとく」＋格助詞「に」 解説：「夢のようにある」。徒然草の文体。

---

Q4. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

風のやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形 解説：「風のようにだ」。

---

Q5. 次の傍線部「やうの」を識別せよ。

月のやうの人。

答え：比況表現（形式名詞「やう」＋格助詞「の」） 解説：形式名詞「やう（様）」＋格助詞「の」＋体言「人」。「月のような人」。「やう」が形式名詞として「～のような状態」を表し、格助詞「の」が連体修飾する用法。形容動詞「やうなり」連体形「やうなる」とは別の構成。

---

Q6. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

鶴のごとき翼。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「鶴のような翼」。

---

Q7. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

仏のやうに尊し。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「仏のように尊い」。

---

Q8. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

雲のごとく消ゆ。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「雲のように消える」。

---

Q9. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

玉のやうに美し。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「玉のように美しい」。

---

Q10. 次の傍線部「やうなる」を識別せよ。

春のあけぼののやうなるもの。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「春のあけぼののようなもの」。

---

Q11. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

我が思ふごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：連体形「思ふ」＋「ごとし」。「私の思うようだ」。

---

Q12. 次の傍線部「やうの」を識別せよ。

月のやうの夜。

答え：比況「やうなり」連体形（省略形） 解説：「月のような夜」。

---

Q13. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

夢のごとき幻。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「夢のような幻」。

---

Q14. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

花のやうに散る。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「花のように散る」。

---

Q15. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

古典の心、玉のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「古典の心は玉のようだ」。

---

Q16. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

雷のごとく響く。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「雷のように響く」。

---

Q17. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

流るるやうに過ぐ。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：連体形「流るる」＋「やうに」。「流れるように過ぎる」。

---

Q18. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

鳥のごとき身軽さ。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「鳥のような身軽さ」。

---

Q19. 次の傍線部「やうなる」を識別せよ。

いと玉のやうなる面持ち。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「とても玉のような顔つき」。

---

Q20. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

我が君は仏のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「我が君は仏のようだ」。

---

基礎編 / 20

---

## 【第2部】標準編 (Q21～Q50)

---

連体形接続・「が」接続・活用形を問う標準問題。

---

Q21. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

行く水の流るるやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形 解説：連体形「流るる」＋「やうなり」。「流れる水のようだ」。

---

Q22. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

過ぎし日は夢のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「過ぎた日は夢のようだ」。

---

Q23. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

春の風吹くやうに心地よし。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：連体形「吹く」＋「やうに」。

---

Q24. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

矢のごとく駆ける。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「矢のように駆ける」。

---

Q25. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

老いたる者の言ふやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形（婉曲・伝聞） 解説：連体形「言ふ」＋「やうなり」。「老人の言うようだ」（～らしい）。

---

Q26. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

鬼のごとき形相。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「鬼のような形相」。

---

Q27. 次の傍線部「やうなる」を識別せよ。

朝霧のやうなるもの立ちのぼる。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「朝霧のようなもの」。

---

Q28. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

我がごとく思ふべし。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「我が」（連体）＋「ごとく」。「私のように思うべき」。「ごとし」は「が」接続も可。

---

Q29. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

渡る舟のやうに揺らぐ。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「渡る舟のように揺らぐ」。

---

Q30. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

君が御心は石のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「君の御心は石のようだ」。

---

Q31. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

思ふやうにならず。

答え：比況「やうなり」連用形（婉曲） 解説：「思うようにならない」。婉曲表現。

---

Q32. 次の傍線部「ごとくに」を識別せよ。

鏡のごとくに澄める池。

答え：比況「ごとし」連用形「ごとく」＋「に」 解説：「鏡のように澄んだ池」。

---

Q33. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

春雨降るやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形（推定） 解説：「春雨が降るらしい」。推定的用法。

---

Q34. 次の傍線部「やうの」を識別せよ。

いかなるやうの事ぞ。

答え：比況「やうなり」連体形省略形 解説：「どのようなこと（か）」。例示・性質。

---

Q35. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

父のごとき慈愛。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「父のような慈愛」。

---

Q36. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

月のやうに清き心。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「月のように清い心」。

---

Q37. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

流るる水のごとく過ぎぬ。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：連体形「流るる」＋「水」＋「の」＋「ごとく」。

---

Q38. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

此の世のあだなる事は浮雲のやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形 解説：「浮雲のようだ」。

---

Q39. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

賢人のごとき人なし。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「賢人のような人はいない」。

---

Q40. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

我が言ふやうに聞き給へ。

答え：比況「やうなり」連用形（婉曲） 解説：「私の言うように聞きなさい」。

---

Q41. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

いにしへ思ふは昨日のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「昔を思うのは昨日のようだ」。

---

Q42. 次の傍線部「やうなる」を識別せよ。

花のやうなる頬。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「花のような頬」。

---

Q43. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

親のごとく慕ふ。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「親のように慕う」。

---

Q44. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

露のやうに消ゆ。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「露のように消える」。

---

Q45. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

千歳もありぬべきがごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：ラ変「あり」連用形「あり」+完了「ぬ」終止形+当然「べし」連体形「べき」+格助詞「が」+比況「ごとし」終止形。「千年もあってしかるべきであるかのようだ」。「ごとし」は連体形+「が」または「の」を介して接続するのが正格。

---

Q46. 次の傍線部「やうの」を識別せよ。

そのやうの事は知らず。

答え：比況「やうなり」連体形（例示） 解説：「そのようなこと」。例示用法。

---

Q47. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

山のごとき波。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「山のような波」。

---

Q48. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

川の流るるやうなりけり。

答え：比況「やうなり」連用形（「やうなり」+「けり」） 解説：「川が流れるようだった」。

---

Q49. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

我らが思ふごとく。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「我ら」+「が」+「思ふ」+「ごとく」。格助詞「が」接続も可。

---

Q50. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

子の親を慕ふやうに。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「子が親を慕うように」。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

文中の比況構文、複合用法、引っかけパターン。

Q51. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

散りなむやうに惜しまるる。

答え：比況「やうなり」連用形（婉曲） 解説：「散ってしまうように惜しまれる」。

Q52. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

露の身の消えなむごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「露の身が消えてしまうようだ」。

Q53. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

夢を見たるやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形（経験回想の比喩） 解説：完了「たる」＋「やうなり」。「夢を見たかのような」。

Q54. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

いみじきごときことなし。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「ひどいようなことはない」。

Q55. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

蝉の声蝉時雨降るやうに聞こゆ。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「降るように聞こえる」。

---

Q56. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

水の流るるごとく過ぎぬ。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：連体形「流るる」＋「水」＋「の」＋「ごとく」。

---

Q57. 次の傍線部「やうの」を識別せよ。

あのやうのこと言はず。

答え：比況「やうなり」連体形（例示） 解説：「あのような事は言わない」。

---

Q58. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

君の徳は山海のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「君の徳は山海のようだ」。

---

Q59. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

雨降る日の続くやうに憂し。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「雨が降り続く日のように憂鬱」。

---

Q60. 次の傍線部「ごとくに」を識別せよ。

玉のごとくに転ぶ。

答え：比況「ごとし」連用形＋格助詞「に」 解説：「玉のように転ぶ」。

---

Q61. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

春の眠りの覚めぬやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形 解説：「春の眠りが覚めないようだ」。

---

Q62. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

童のごとき心。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「童のような心」。

---

Q63. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

仏の御心のやうに清し。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「仏の御心のように清い」。

---

Q64. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

友のごとく親しき。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「友のように親しい」。

---

Q65. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

あくる年も同じやうに過ぐ。

答え：比況「やうなり」連用形（同様） 解説：「翌年も同じように過ぎる」。

---

Q66. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

我れ汝を見ること父母のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「私があなたを見るのは父母のようだ」。

---

Q67. 次の傍線部「やうなる」を識別せよ。

神のやうなるお方。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「神のような方」。

---

Q68. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

鶴のごとき翼を持つ。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「鶴のような翼を持つ」。

---

Q69. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

過ぐる年月、夢のやうに思ふ。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「過ぎた年月を夢のように思う」。

---

Q70. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

雲のごとく散る。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「雲のように散る」。

---

Q71. 次の傍線部「やうの」を識別せよ。

かばかりのやうの事。

答え：比況「やうなり」連体形（例示） 解説：「これほどのような事」。

---

Q72. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

紅葉、錦のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「紅葉が錦のようだ」。見立て。

---

Q73. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

鏡の面のやうに静かなり。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「鏡の面のように静かだ」。

---

Q74. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

流星のごとく速し。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「流星のように速い」。

---

Q75. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

怨むるやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形（婉曲） 解説：「怨んでいるかのようだ」。

---

Q76. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

いたづらなるごとき人。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「無益であるような人」。

---

Q77. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

子のやうにかしづく。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「子のように大切に育てる」。

---

Q78. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

願ふ事は皆かなふごとし。

答え：比況「ごとし」終止形（推定） 解説：「願う事は皆かなうようだ」。

---

Q79. 次の傍線部「やうなる」を識別せよ。

思はぬやうなる目を見つ。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「思いがけないような目に遭った」。

---

Q80. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

月日のごとく過ぐ。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：「月日のように（速く）過ぎる」。

---

応用編 / 30

---

## 【第4部】 入試レベル (Q81～Q100)

難関大頻出の文脈判定、用法分類、漢文訓読体の問題。

### Q81. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

学びて時に之を習ふ、また説ばしからずや。朋遠方より来る、また楽しからずや。人知らずして慍らず、また君子ならずや。我れ視ること彼のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形（漢文訓読体） 解説：「彼のようにだ」。漢文訓読の比況。

### Q82. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

行く川の流れば絶えずして、しかも本の水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖と、又かくのやうに消えゆく。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：方丈記の文体。「このように消えてゆく」。比喩。

### Q83. 次の傍線部「ごとくに」を識別せよ。

行く水のごとくにぞ。

答え：比況「ごとし」連用形「ごとく」＋格助詞「に」 解説：「流れる水のように」。

### Q84. 次の傍線部「やうなる」を識別せよ。

風の前の塵に同じ。たけき者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ。世の人みなかくのやうなるものなり。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「このようなもの」。例示・性質。

### Q85. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

一念三千の理、玉のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「玉のようにだ」。

Q86. 次の傍線部「やうの」を識別せよ。

同じやうの心ばへなる人。

答え：比況「やうなり」連体形（例示） 解説：「同じような心の人」。

---

Q87. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

此のしぶとき翁のごときもの。

答え：比況「ごとし」連体形（例示） 解説：「この頑なな翁のようなもの」。

---

Q88. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

いはむやうにもあらず、書かまほし。

答え：比況「やうなり」連用形（婉曲） 解説：「言うようにもいかず、書きたい」。

---

Q89. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

故老の言ふごとくにて。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：連体形「言ふ」＋「ごとく」。

---

Q90. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

一夜の夢のやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形 解説：「一夜の夢のようだ」。

---

Q91. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

人の心は野の風のごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：「人の心は野の風のようにだ」。

---

Q92. 次の傍線部「やうの」を識別せよ。

都の人のやうの装ひ。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「都の人のような装い」。

---

Q93. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

我れ汝のごとき愚か者を見ず。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「あなたのような愚か者を見ない」。

---

Q94. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

風吹けば沖の白浪立つやうに騒ぐ。

答え：比況「やうなり」連用形 解説：「風が吹けば沖の白波が立つように騒ぐ」。

---

Q95. 次の傍線部「ごとく」を識別せよ。

玉のごとく光る露。

答え：比況「ごとし」連用形 解説：体言「玉」＋格助詞「の」＋比況「ごとし」連用形「ごとく」＋動詞「光る」＋体言「露」。「玉のように光る露」。「ごとし」は形容詞ク活用型（○・ごとく・ごとし・ごとき・○・○）。

---

Q96. 次の傍線部「やうなる」を識別せよ。

月の影さしたるやうなる色。

答え：比況「やうなり」連体形 解説：「月の光が射したような色」。

---

Q97. 次の傍線部「ごとし」を識別せよ。

心ある人の言ふごとし。

答え：比況「ごとし」終止形 解説：連体形「言ふ」＋「ごとし」。「分別ある人が言うようだ」（推定）。

---

Q98. 次の傍線部「やうに」を識別せよ。

思ふやうにならぬが世の常なり。

答え：比況「やうなり」連用形（婉曲） 解説：「思うようにならないのが世の常」。

Q99. 次の傍線部「ごとき」を識別せよ。

賢人のごとき徳。

答え：比況「ごとし」連体形 解説：「賢人のような徳」。

Q100. 次の傍線部「やうなり」を識別せよ。

桜の花、雪の散りたるやうなり。

答え：比況「やうなり」終止形 解説：完了「たる」＋「やうなり」。「雪が散ったようだ」。見立て。

入試レベル / 20

## 採点振り返り

セクション	配点	得点
基礎 (Q1～Q20)	20	
標準 (Q21～Q50)	30	
応用 (Q51～Q80)	30	
入試 (Q81～Q100)	20	
合計	100	

- 80点以上：完璧
- 60～79点：標準合格レベル
- 40～59点：基礎は固まっている。婉曲・例示の区別を反復
- 39点以下：「やうなり」「ごとし」の活用表から再確認

## あとがき

比況「やう・ごとし」識別の核心： - 「やうなり」「ごとし」 → 「～のようだ」 - 接続：「やうなり」は体言・連体形＋「の」、「ごとし」は連体形・「の」「が」 - 活用：「やうなり」は形容動詞型、「ごとし」は形容詞型 - 用法：比喩・例示・婉曲・推定

漢文訓読体には「ごとし」が多く、和文には「やうなり」が多い。方丈記・徒然草・源氏物語など、文体識別の鍵にもなる。

---

**著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

---

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosensei.com>